

中学校から高等学校への支援の引き継ぎ～就学支援シート（高校学校向け）の活用～

多摩市の「支援の引き継ぎ」の特徴

- ①個別指導計画、学校生活支援シートの他に、保護者が記入する「就学支援シート（高等学校向け）」を引き継ぎに使用でき、高等学校生活に際しての配慮や支援等が書面で伝えられます。
- ②就学支援シート等の提出は、保護者が高等学校に持参することとしています。高等学校と話しをするきっかけ作りとなります。
- ③就学支援シートには、保護者の希望により、中学校の先生など関係機関等にも記入してもらうことができます。また、必要に応じて、高等学校と出身の中学校とが情報の連携を行うことができます。

保護者が行う「支援の引き継ぎ」の流れ

- ①12月頃の進路の面談で、高等学校へ支援の引き継ぎを行うことを担任に申し出る。
担任から就学支援シートを受け取る。
- ②就学支援シートに記入する。
必要に応じて、中学校にも記入してもらう。
- ③高等学校の合格決定後、合格した高等学校に連絡し、就学支援シート等の提出を申し出るとともに、「いつ」「だれに」就学支援シートを提出するか確認する。面談の機会を作ってもらえるよう申し出る。
- ④高等学校と確認した日時に就学支援シート等を提出する。面談の際には、説明を行うとともに信頼関係作りに努める。

就学支援シート等の提出による高等学校の対応の事例（保護者からの聞き取り）※全ての高等学校がこのように対応できるとは限りません。

A 高校

- ・就学支援シート、学校生活支援シート、個別指導計画を提出した。
- ・入学式後の保護者会で担任に生徒本人の特性を伝えた。
- ・部活内でのトラブルはあったが、顧問の先生の理解があり、クールダウンの方法や必要性を本人と話し合ってくれた。また、他の生徒に対し障害特性を説明する機会を作ってもらった。
- ・体育の授業等で本人の苦手がたくさん出たが、体育の教員が「～は得意だけど、～は苦手なんだよ。だから、～のように接してみてくださいらん」等のアドバイスを周りの生徒に説明してくれた。

B 高校

- ・就学支援シートのみ、3月の入学者説明会で提出した。母、本人、養護教諭、先生で話した。母から心配事を伝えたところ、「そういう生徒も過去にいたが資格もとって卒業していつている。実習先によってはそのことを伝えた方がうまくいくこともあるし伝えない方がいいところもあるので、そこは学校に任せて欲しい」と言われた。
- ・その後は特に学校からの連絡はない。

C 高校

- ・入学式の当日に就学支援シートを学生相談室の相談室長に提出した。
- ・担任には保護者から直接情報を伝えることはしていないが、相談室から担任に情報共有されている。
- ・相談室の体制が整っており、細かく見てもらえてよいと感じている。

D 高校

- ・就学支援シートや学校生活支援シート、個別指導計画を入学者説明会で提出した。入学式後に話す約束となった。入学後、担任とコーディネーターに説明をした。担任に加え学年の先生にも周知されている。
- ・先生たちが本人の特性や支援が必要なことを知ってくれているので、例えば忘れ物があって「ない、ない」と騒いでいても「探してなかったら取りにおいで」とさっと流してくれるなど、つまづいたときに対応してもらっている。
- ・保護者、中学校の担任、通級担任が異口同音に「秋になると精神的に落ち着かなくなる」と書類に書いていたので、高校の先生が秋を前に意識してくれている。
- ・就学支援シートを提出したことで先生から気を配ってもらっている。これまでいかに大変な子だったかを伝えていたので、今は「取り越し苦労でしたね」といってもらえるくらい成長を認めてくれている。

E 高校

- ・入学説明会の前に電話で提出希望を伝えた。説明会后に個別面談を設定してもらった。個別面談で就学支援シートや学校生活支援シート、個別指導計画、医師の診断書をコーディネーターに提出した。
- ・7月に友人関係でトラブルがあったが、資料を提出していたので先生たちには状況を理解してもらえた。本人が先生の介入を嫌がったので両親が本人にSST的な指導をして解決に至った。
- ・コーディネーターの先生に時々話しに行くと授業を見に来てくれる。
- ・引き継ぎ資料はあったほうが良いと感じている。先生たちの受け止めがスムーズで、依頼したり相談したりが進みやすい。

